宗像

発行所
宗像大社
宗像会
〒811-3505 福岡県宗像郡玄海町
電話 0940－62－1311代
定価 一年送料共 1000円

平成十二年を振り返って

＝祭事滞りなく斎行＝

辰年の平成十二年が暮れようとしています。

今年も各祭典、諸行事には関係各位の皆さまに御奉仕をいただき、又多くの方々に御参拝賜り、厚く御礼申し上げます。

当社の今年を祭典中心に回顧してみます。

元旦　午前零時、大太鼓の音と共に神門が開かれ、平成十二年・庚辰年の幕が開きました。

開門前より並んでいた参拝者が、浄暗の中ぼんぼりの明りだけが光る本殿へ参拝し、ひたすら手をあわせている姿は、混迷の続く現在の世の中を映しているようでした。

「今年の冬は暖冬」との予報通り、三ヵ日はあまり寒く感じない正月だったと思います。そのためか、宗像市郡内また県内外の方々が多く参拝され、三日間で約五十万人の方々が参拝されました。

二月三日　節分祭斎行。

十一日　我が国の創肇を寿ぐ建国祭を斎行。

三月七日　早春採取の玄界若布を天皇、皇后両陛下、皇太子、同妃両殿下に恭しく献上申し上げました。

四月一、二日　春季大祭。十九日には筑前大島の沖津宮遥拝所で沖津宮春季大祭、中津宮で中津宮春季大祭を斎行。

五月五日　皐月・浜降祭。二十七日　絶海の真つ只中に浮かぶ孤島・沖ノ島鎮座の沖津宮での年に一回の現地大祭は、生憎の雨天と海上時化のため中止となり、神職以下崇敬者二百余名は沖津宮遥拝所で大祭を斎行しました。

七月三十一日　大祓式・夏越祭斎行。神門前にしつらえられた緑鮮やかな大茅輪の前に宗像市郡内はもとより全国の崇敬者から寄せられた人形を供え、上半期の罪・穢れをお祓いするとともに参列者は大茅輪を潜り、下半期の無病息災を祈りました。又、中津宮にて行われた七夕揮毫会は今年で四十五回目を数え、参加各小学校の児童、生徒たちが大島の夏を満喫しました。

八月七日、中津宮境内の清流「天の川」をはさんで、鎮座する牽牛社・織女社の神前にて七夕祭を斎行。七夕踊りも奉納され、夜遅くまで賑いました。十五日　宗像護国神社にて戦没者追悼慰霊祭が斎行され、地元の子供達により千灯明も行われました。

九月一日　風鎮祭を地元農事関係者参列のもとに斎行。九日　沖津宮神璽迎えを秋季大祭に先立ち斎行。当日は台風の影響か海上大荒れでしたが、無事渡島し、御神璽をお迎えしました。

十月一日～三日　秋季大祭斎行。海上神幸「みあれ祭」は、宗像七浦と近隣の漁船約四百隻が参加、好天のもと玄界灘洋上で勇壮に繰り広げられました。又、十月十二日　沖・中両宮秋季大祭斎行。十七日　表千家家元奉仕による献茶祭が斎行され、第十四代家元而妙斎千宗左宗匠のお点前が披露されました。

十一月三日　明治祭斎行。十二日には、「昭和の大造営」から三十年目を迎えた本年、遷宮三十周年記念祭を斎行。十五日　七五三祭。二十三日　新嘗祭を斎行。第三十回西日本菊花大会、献詠短歌大会、宗像本因坊戦、宗像大社刀剣展、秋季奉納盆栽展、少林寺拳法奉納演武会など多くの神賑行事が催され、特に境内の西日本菊花大会では菊花をバックに記念写真を撮影する七五三詣での家族などで大いに賑い、特設のお茶席も錦秋の一日を楽しむ参拝者で絶えませんでした。

十二月二日　中津宮蛭子祭斎行。七日　古式祭・鎮火祭斎行。早朝六時から本殿で古式祭、六時三十分から地元当番の方々の奉仕で御座が催されました。早朝から多くの参拝者が清明殿で今年収穫された新穀をお神様と共にいただき、災難消除、延命招福を祈りました。十九日　末社松尾神社芳醸祈願の松尾神社祭斎行。二十三日　今上陛下御生誕慶賀の天長祭斎行。三十一日　大祓式・除夜祭が斎行となり、年中祭典行事が終了となります。

世相は混迷しており、来たる平成十三年の「巳」の歳に新たな希望を宗像の大神様の御加護の下に、国民全てが平穏で幸福な生活をおくれますよう御祈念申し上げます。

神具・装束
結婚式場用品
株式会社 井筒
福岡店 福岡市博多区東公園一－三二 〒812－0045 電話 福岡(092)六五一－九四五六番
本店 京都市下京区油小路六条北入 〒600－8231 電話 京都(075)三四一－三三四一代～四番 三四三－三三三四一番

神宮大麻 宗像大社神符 頒布始祭

―氏子評議員会も開催―

平成十三年神宮大麻並びに宗像大社神符の頒布祭が十一月二十日（日）午前十一時より、当大社祈願殿で執り行われた。

祭典は福岡県神社庁西高辻副庁長（太宰府天満宮宮司）、同宗像支部中村支部長（摩利支神社宮司）を始め、宗像市郡内の神職や総代約百八十人が参列、斎主阿部副支部長（宮地嶽神社祢宜）により、神宮大麻が市郡内各戸にくまなく奉斎されて、皇室の御祖先で私たちの総氏神である天照大神の御加護の下に、国民全てが平和で豊かな生活を送れるようにとの祝詞が奏上された。続いて斎主の玉串拝礼に続き、参列者代表がそれぞれ拝礼を行った。

神宮大麻は宗像支部総代会沖会長に、宗像大社神符は宗像大社氏子会首元会長に斎主よりそれぞれ手渡され、祭典は厳粛かつ盛大に滞りなく終了した。

祭典の後、清明殿で式典が行われ、国歌斉唱、神宮並びに皇居遥拝、敬神生活の網領唱和、引き続き神社功労者の表彰式が行われた。

神宮大麻は、天照大神をお祀り申し上げる伊勢神宮の大神札で毎年各家庭に頒布される大麻を神棚に奉斎し、朝夕に拝礼して大神の御神徳を仰ぎ、家族の平隠と無事をお祈りする御神璽である。

かつては「お祓いさん」「御祓大麻」と称され、伊勢の御師によって全国に頒布されていたが、明治天皇の思し召しにより明治五年から神宮司庁によって全国に頒布され「御祓大麻」を「神宮大麻」と改称、皇大神宮の大神璽として各戸に頒布され、現在に至っている。

今は、神宮司庁に大麻課を置き、神社本庁に頒布の一切が委託され、全国各地の神社庁を経由して、神職および氏子総代の皆様の奉仕と努力で、各戸に頒布が続けられている。

神郡宗像に於いても、新年を迎えるにあたり、氏子の皆さま方が「神宮大麻」と「宗像大社神符」を家庭や会社の神棚に奉斎し、来たる二十一世紀を大神の御加護のもと、益々繁栄されることを御祈念申し上げます。

木組の家
匠の技
総合建設業 株式会社 弘江組
事務所 〒811-3406 福岡県宗像市大字稲元一〇二五 電話（〇九四〇）三二－二五六七

大祓式・除夜祭

年の瀬を迎え、皆様方には御多忙の御事と拝察申し上げます。

さて、恒例の年越の大祓神事並びに除夜祭につきまして御案内申し上げます。

この神事は一年間の心身の罪、穢れを人形に託して祓い除き、清々しい気持で新年を迎える儀式です。

又、除夜祭は一年の祭典の納めを神前に奉告し、御神徳に奉謝する祭典です。

本年も左記日程により、大祓式並びに除夜祭を斎行します。皆様方と御一緒にこれらの儀式・祭典に奉仕し、清き心で新年をお迎え致し度く、御参拝・御参列の御案内を申し上げます。

記

一、十二月三十一日　午後三時、年越の大祓式、引き続き除夜祭斎行。

一、皆様方に御送付申し上げました人形・車型に御記入の上、十二月三十一日までに当社へ到着するよう御返送下さい。

なお、人形につきましては男は白、女は赤に氏名、年齢を書き、息を吹きかけ御送付願います。

余滴

二十世紀最後の「師走」が来た。年末になると税金申告、いやな季節である。国も県も市町村も、鵜ノ目・鷹ノ目で税金対象に目を光らすのは今も昔も変わらないらしい。

ローマ帝国の「公衆トイレ税」に始まり、中世欧州の家族人数課税で有名な「人頭税」。現代の変わりダネが「独身税」、これはブルガリアが人口増加策として独身者に特別課税した。我が国でも戦国時代以降、窓の数に応じて課税する「窓税」とか江戸時代の「大税」などが有名である。

今、東京都は新税導入で沸いている。ホテル利用者対象の「ホテル税」さらに隣県からの通勤者対象の「流入税」などなど。これらの税対象が二十一世紀に引続かれ本格化して来ると、一都市だけの問題でなく、国貝単位で課税化し、財政再建資金に取り込まれる事になればどうなるだろう。

二十一世紀は「税金戦国時代」に入る、国も、県も、市町村も関所を作り「手形」を持って旅をする。十八世紀頃までタイムスリップして、チョンマゲ姿に戻るのだろうか。

人の命より他動物の命が大切な今世を見れば、笑って居られない時代である。「動物愛護」「生類憐みの令」が人間愛の真の姿と叫ばれる世紀末である。被害者の人権はすてられ、加害者の人権のみが保護される今の司法。どうなって行くか二十一世紀は？

されど地球はまわる。時は流れて行く。宇宙の中の小さき「地球」と云う星が。

秋季神賑行事

＝第二十九回献詠短歌大会＝

今年で二十九回目を迎えた宗像大社献詠短歌大会（主催＝宗像大社歌会、後援＝毎日新聞社）が十一月十一日（土）当大社清明殿で開催された。

本大会は昭和四十六年の遷座祭を記念して翌四十七年より行われ、我が国の伝統文化護持と教化・神徳発揚を目的に毎年開催されている。

参加者には自分の作品が選者の先生方にどんな評価を受けているのか、また歌を詠む時はどんな点に注意すればよいのかなど、非常に勉強になると好評を得ている。

本年も、県内外より百十五首の詠草が寄せられた。

詠草を神前に奉奠し、献詠短歌大会奉告祭を斎行、斯道の興隆と参加者の平穏を祈念した。

続いて大会に移り、開会の辞に続いて、当大社太田宮司が挨拶した後、今上陛下の御即位十年奉祝記念として製作された「平成の御代十年」という映画を鑑賞した。続いて本年の選者中西輝麿、江口富士子、山﨑源太郎、大野展男の四氏の先生方の紹介をして午前の部を終了。

午後の部では、先生方と参加者による入選歌の相互評、また各先生方による全詠草の評価が三時間に及ぶ熱いものとなった。

そして入選歌の発表、表彰式となり午後四時過ぎ終了した。

本年も素晴しい作品が多数あり、選者に迷うこともあった。来年は三十回の節目を迎える。本年を越える力作、秀作を期待する。

入選歌並に各賞受賞者は次の通りである。

〈特別賞〉

福岡県知事賞　宗像　藤本　綾子
時化あとの波のうねりに沿ひて飛ぶ鴎の群れを夕日がつつむ

福岡県教育委員会賞　福岡東　木梨　菅子
御潮斎に浄めて宮の段上る山誉祭の笛の音聞きつつ

宗像大社宮司賞　下関　金丸　梅子
心臓の手術待つ日を読み難き歓異抄読む大活字本に

毎日新聞社賞　宗像　井上　光
終業式終へし童が花開く鉢の向日葵抱き帰り来

〈選者賞〉

中西賞　宗像　安部　明美
士だんご作りて遊びし日もありきそれより未だこの世に生きる

大野賞　中間　浜口　秋雄
稲妻の光は鋭く閃きて売る田に佇てば祖父の声する

山﨑賞　宗像　池浦千鶴子
麻痺をもつ手にて音なき拍手する妹に新郎新婦近づく

江口賞　宗像　中村　哲真
咲き競い香り漂う大社一年を待つ大輪の菊

〈互選賞〉

宗像大社歌会会長賞　宗像　小林　良子
向ひ家のバイクのエンジン長ながと噴かされてゐる今朝の冷え込み

宗像大社氏子会会長賞　宗像　安部カツエ
幼児がわれに渡すと握り来し飴玉一つほのかに温し

玄海町教育委員会賞　宗像　河村　久光
わずかなる玉葱束ね吊りさげし軒下ぬくく静もりてお り

毎日新聞社賞　宗像　金子　勲子
父母逝きて売らるる実家の片付けを終へてさ庭にひとり佇む

下関　松尾　遵子
トンネルに入りて車窓に写りたるわれは近頃亡き父に似る

京都　浦山はるみ
玄海の波のしぶきを受けて咲岬の路は黄の色深し

下関　西川　清美
停車せる列車のドアの開く合間蝉の鳴声車内に満つる

中間　勝原たか子
物言わず抗うさまに居りし男孫ゆうべ鮨巻く吾を手つだう

〈佳作〉

下関　目黒　晴美
梅雨あけの空よりも青き溶接の閃光放つ修理船より

若松　山﨑　さが
潮ひきて葦の河原をとび跳ねる銀鱗めがけ白鷺はしる

下関　田中　愛子
吾が尋ね母が答うるこの夕べ指先なぞって肩に触れつつ

宗像　竹浦　葛明
帰りゆく園児はステップ踏み乍らお浚いしつつ吾を追い越す

宗像　永富　臻
桜色したる真鯛の一匹を植切りて買ひぬ浜の朝市

宗像　古森テル子
痺れ来し吾が手でお膳持ちて見る指のなゆみの癒ゆる時待つ

遠賀　石田こまよ
「農薬か」魚も虫も減りたらむ如何にせむやと白鷺の佇つ

宗像　森　甲子
訪づるる人も見かけぬ山里の池に群れ咲く紅き睡蓮

若松　山﨑　眞吾
食いしばり祈る心でリハビリの杖にすがりてこの坂登る

宗像　山本　静子
「尿検査」目顔で聞けば看護婦の右手に○と笑顔で示す

＝秋季奉納盆栽展＝

菊の香りが境内に漂う十一月十一日より十五日までの五日間、当大社本殿横の境内に於て秋季奉納盆栽展が開催された。

宗像地区は、古来より神郡と称され、そこに住む郡民はすべて大社の氏子、神の民として共々栄え、美しい文化の里、風光明媚な山河を今日に残して来たが、その氏子愛好家が奉納する盆栽展も今年で二十八回目を数えることとなった。

十一日は、早朝より会員が、丹精込めて仕立てた作品が次々と搬入され、全作品が揃った後、本殿に於て奉納式が斎行され、各作品のお祓いがなされて奉納盆栽展が開幕した。

開催期間中は、菊花展をはじめ、宗像刀剣展、ガラス工芸展などの神賑行事も開催されており又、七五三の時期とも重なって、親の手にひかれた晴姿の幼子達が多く、はなやかな雰囲気の中、会場は大いに賑いを見せた。

五日間に亘って好天に恵まれ、盆栽展は好評のうちに十五日無事終了した。

盆栽展は、開催前には打合せ会、終了後に反省会が開かれ、奉納盆栽会渡邊徹会長より会員の協力のもと天候にも恵まれ盛会に開催されたことの喜びを告げ、さらなる盆栽展の発展を目指していくことを確認した。

この盆栽会は、宗像市郡内の盆栽愛好家で組織され「宗像大社の御神徳の発揚に務め、併せて愛好家相互の親睦を計り、日本の伝統と格調高い美を遺憾無く表現できる盆栽の普及、創作、技術の研究に励み、盆栽発展の一助とする」のを目的として、昭和四十七年結成され、翌四十八年十一月、第一回奉納盆栽展を開催して以来今日まで続いている。

＝第二十七回宗像本因坊戦＝

昭和の大造営記念の神賑行事として行われている宗像大社本因坊戦は、今年も境内に菊花咲き誇る十一月五日（日）午前十時より当大社清明殿、斎館を会場として催された。

参加資格は宗像市郡内に居住する人で、約百人の一般選手によるリーグ戦と、これとは別に四、五段クラスの高段者により本因坊戦が行われるが、文字通りその年の実力ナンバーワンを決める大会である。

当日参加した選手約二百名は大会に先立ち、拝殿に於てお祓いを受け、正々堂々の対戦を神前に誓った。

選手は互いに顔見知りの人が多く、会場は和やかな雰囲気のうちに終始したが、この日に備えて練磨した日頃の成果を発揮しようと各盤上に熱戦が展開され、星のつぶし合いに一喜一憂の歓声が上がった。

特に本因坊戦はその栄位をかけて福間の村社氏、宗像の石田氏が決勝戦に進出し、最後まで予断を許さぬ力戦が展開され、盤側に集まった観戦者は固唾を飲んで勝負の行方を見守る中、遂に村社氏に凱歌が上り、宗像大社本因坊の栄位を獲得し大トロフィーを手におさめた。

二十七回を迎えた宗像大社本因坊戦は宗像市郡内囲碁ファン待望の秋の行事として定着している。

同市郡は昔から囲碁熱の盛んな土地柄であるが、最近は福岡、北九州両市のベットタウンとして市郡外からの移住者が急増し、これに比例して囲碁愛好家も増え、益々盛んになっている。

そしてこれを反映して本因坊戦も年々充実し、内容の高いものに発展している。

成績は次の通り

宗像本因坊　福間町　村社　好男氏

準優勝　宗像市　石田　徳房氏

三位　福間町　浅見　忠雄氏

＝少林寺拳法奉納演武＝

十一月十九日（日）恒例の第一二回少林寺拳法奉納演武が本殿西側の境内で開催された。

この演武は、宗像地区の少林寺拳法連合会が毎年奉納する演武会である。

午後一時、拳士一同が神前に並び谷重信代表が開会を宣言した。参加したのは小学生を中心としたチビッ子拳士とその父兄、福岡教育大学少林寺拳法部の学生拳士、そして指導者格の拳士の方々。

熱気が高まり日頃積み上げられた鍛錬の成果を披露しようと緊張感がみなぎる中、演武は先ずチビッ子拳士から始まった。技量がまだ未熟な為かうまく技がきめられない場面もあったが、子供らしく健気でほほえましかった。

学生拳士ともなると生気あふれる若人のあらん限りの力を尽した雰囲気。青年らしく清々しい技の数々が繰り出された。

最後に指導格の拳士が、手本となるべき組演武、単独演武を披露した。技の一つ一つにきれがあり無駄な力を一切出すこと無く少林寺拳法の真髄の一端を垣間見る事が出来た。

少林寺拳法は、宗道臣師が中国少林寺に伝わる拳法を彼の地で会得し、戦後日本に持ち帰り広めた武道で、今日で合気道と並び広く一般に定着したスポーツとして親しまれている。

当大社でも二十年前から神前に奉納され、この日参拝者たちもしばしの間足を止め妙技の数々に目を奪われていた。

高校球児〝高宮〟で鎮魂

最近、当社祭場「高宮」で、野球部員の精神修養「鎮魂」が行われている。

この高宮祭場は、宗像大神降臨の地と伝えられ、現在も昔ながらに祭典が続けられている。神籬・磐境というお祭りの原点を今に残す、全国でも数少ない古代祭場である。

十一月三十日には県立新宮高校硬式野球部員が松本監督に引率されて、また十二月三日には県立鞍手農高軟式野球部の櫻木監督以下十五人が来社、高宮祭場で鎮魂を修養した後、境内清掃奉仕作業を行った。

今までにも、よく禅寺で座禅を組む野球部員の話題はニュースに流れた例はあったが、神社の祭場で鎮魂と云うのはめずらしい。

現在の高校野球は、夏の甲子園でも見られるように各地各校の実力はほぼ一線であるようだ。その中から優勝に輝く一校の野球部員の実力は、心・技・体の完成にあると思われる。

野球は団体競技である。個人プレー以上に求められるのがチームの和であり、結束であり、団結心であろう。今回、監督の球児育成法に取り入れ、実施されたのも、この〝心〟の部分の指導に一番力を入れているからである。

青春真っタダ中の、球児達は、日頃体験できない事を奉仕の精神をもって真剣に取りくみ、それぞれ忘れる事の出来ない「心の思い出」を作って帰校した。

帰校後、各監督より礼状がよせられ、

「目配り・気配り・思いやり」の心を育成する生徒指導の目標に一歩近づいた喜びが記されていた。来年の飛躍を目指して更なる努力に邁進される事をお祈り申し上げます。

〔ご案内〕

平成十三年正月祭

新年諸祈願並びに縁起守等授与品御案内

平成十三年正月に当大社社頭に於て、初詣の皆様に授与致します縁起守などのご紹介を紙面で御紹介申し上げます。

「新年諸祈願のご案内」
平成十二年の交通安全、業務安全、業務繁栄、家内安全などを左記の通り斎行致しますので、是非御参拝下さい。

◇交通安全祈願祭

※普通車
(車輌一台につき)
初穂料　五、〇〇〇円
授与品
車輌用御守、御幣各一体、供物

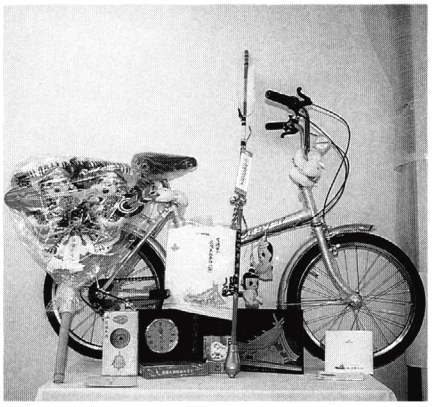
※大型車
(車輌一台につき)
初穂料　六、〇〇〇円
授与品
車輌用御守、反射守、御幣各一体、供物

◇諸祈願

※会社・団体
交通安全、業務安全、業務繁栄、商売繁盛等
◎初穂料
五〇、〇〇〇円以上
授与品
祈祷神符(特大)一体、神酒一升
◎初穂料
三〇、〇〇〇円以上
授与品
祈祷神符(特大)一体、神酒一升
◎初穂料
一〇、〇〇〇円以上
授与品
祈祷神符(大)一体、神酒四合

※家庭・個人
家内安全、厄年祓、厄除、入試合格、諸願成就等
◎初穂料
五、〇〇〇円以上
授与品
神札又は御守一体、供物　以上

◇――◇――◇



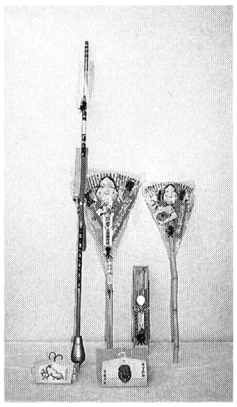
「新春福みくじ」
初穂料
一体、五〇〇円也
宗像大社新年の名物であります福みくじは神門前に授与所を特設、新年の運勢と福運を占っていただきますよう授与致します。
特賞～十等賞迄の各賞があり、受けられた方々には必ず賞品を授与致します。
来年は七万五千体を準備、参拝の折には、是非その年の運勢を占っていただきますようご案内致します。
その他、特別賞も多数ございます。

◇――◇――◇

「干支一刀彫」
初穂料
一体、
二〇〇〇円也
毎年元旦を期して授与している縁起守で、クスの木を材料にその年の干支を一本のノミだけで奉製することから〝一刀彫〟と称します。
当大社では伊勢の名匠に特別に製作を依頼し、一年がかりで二千体を奉製いただいております。
この干支一刀彫は十二支全て揃えると願い事が叶い縁起が良いと云い伝えられております。お正月限定の授与品ですので、お早目にお受け願います。

◇――◇――◇

「主基地方風俗舞人形」
初穂料
一体一〇〇〇円
当大社春秋大祭の折、主基地方風俗舞保存会々員により奉奏される舞が、主基地方風俗舞です。
この風俗舞は、天皇陛下御即位の大嘗祭にのみ披露される国風舞であり、東日本の悠紀地方風俗舞と、西日本の主基地方風俗舞の二つの舞があります。
この舞は門外不出を原則とし、大嘗祭後は一度も奏されることがありませんでしたが、昭和三年昭和天皇御即位の折、福岡県脇山村(現福岡市早良区脇山)が主基地方に選定され、その時に舞われた主基地方風俗舞を、昭和四年宮内省より皇室との由緒も深い当大社にのみ特別に御下賜され、全国で唯一伝承保存しています。
今上陛下御即位十年を記念し「主基地方風俗舞人形」を調製、新春の御参拝の皆様方に社頭にて授与致します。



平成十三年の厄年表

厄年とは古くから、その年は忌み慎しむべき年といわれ、一切の無事息災を願う厄年祓祈願を当社にて執り行っております。
ぜひお詣り下さいます様御案内申し上げます。

平成 13 年　厄年一覧表

		前厄	本厄	後厄
男	25 歳	昭和 53 年生	**昭和 52 年生**	昭和 51 年生
男	42歳(大厄)	昭和 36 年生	**昭和 35 年生**	昭和 34 年生
女	19 歳	昭和 59 年生	**昭和 58 年生**	昭和 57 年生
女	33歳(大厄)	昭和 45 年生	**昭和 44 年生**	昭和 43 年生
女	37 歳	昭和 41 年生	**昭和 40 年生**	昭和 39 年生

その他　還暦祝…昭和16年生　(男女 61歳)
十三詣り…平成元年生　(男女 13歳)
※年令は全て数え年です

節分祭ご案内

皆様方におかれましては、益々御清栄のことと存じ上げます。
扨て、当大社恒例の節分祭を左記の如く斎行致しますので御参拝下さいますようご案内申し上げます。

記

一、日　時　平成十三年二月三日　午前十時
　　祭典終了後、豆打式
一、場　所　当大社祈願殿
　　平成十二年十二月吉日
　　宗像大社社務所

各　位

記

一、祈願祭典場　於　儀式殿
一、祈願初穂料　一人　五、〇〇〇円
一、授　与　品　福升一箇(福豆入一合)
　　厄除守札一体・開運守札一体

一月二十八日～二月十二日迄、厄除祈願祭を左記により終日執り行います。

第四七四回　宗像大社歌会詠草

大野展男　選　毎月25日〆切

日の里　石松　知子
椎の実を拾ひてをればまた一つ地に音して秋深みゆく
(評)一葉落ちて天下の秋を知る。ではないが椎の実の地に落ちた音から秋の声を聞き取った作者の感覚は鋭い。一首からは透明な空気も伝わってくる。

朝野　藤井　浩子
妹のカナダ旅行の日程表なぞりてわれは地図に旅する
(評)恙の身の作者か、いつもは一緒の妹に心ならずも取り残された無念さが、下二句に滲んでいる。平明に絞し味深い一首である。

田野　森　つるの
見し夢は現実になきストーリー脳細胞の異常疑ふ
(評)加齢すると思いもよらぬ事に出合う。直絞に思いを述べているが、短歌を詠み得ることはまだまだ大丈夫な証拠。折角のご加餐を。

福　間　中村　勇
駅頭にて共に送られ征きたるに今朝みまかりぬ米寿の宮司
(評)共に征きあの大戦を生き抜いてきた知人が逝った。八十八歳と言う年令にこめられた感慨は尋常ではない。戦中戦後の日本の縮図を見るような説得力を持つ佳什である。

大　島　杉田　禮子
海に遠き我が家に一つの舟虫が這へば思はず空積様見る
(評)小さな生物(ここでは舟虫)がいち早く知る天候の変化。島に住む人ならでの作だが、小動物たちに劣らず鋭敏な作者の日常の姿が見える。

光　岡　森田富佐子
桜木に天道虫の親子づれサンバに合はすかよちよち登る

日の里　石松　弘次
鮭背負う北海道の熊の様みせて魁皇武蔵丸投げる

在　自　佐々木和彦
来む春の異動調書を提出し戻る山路の紅葉は散れり

福　間　池浦千鶴子
厨べにひとり小芋の皮むくに冷蔵庫の音ふいに高まる

鐘崎　安永　久子
拘れど吾が手にあまる庭の木々亡き夫に詫び伐るをきめたり

吉　留　高山　信子
病院より一・五キロの道歩くオーバーの汚れ日に曝らされて

武　丸　中村さつき
楊貴妃の白磁の像の優雅さを暫し見て佇つ秋日の下に

光　岡　竹浦　葛明
山峡の刈田に立てる朝靄はゆらりゆらりと消え失せゆけり

名古屋　小田　喜一
さわさわと秋の音する葦の辺に和毛吹かるる汚れし鷺は

原　町　八波　五月
此の年も後三月なり我が米寿忘れずに子等祝ひて呉る

名古屋　小田　留子
ひたすらに主を引きて盲導犬わき目もふらず行くさまあわれ

大　島　越智　治子
人気なき家にもどりぬ庭先の石蕗の花の黄色目にしむ

光陽台　香月　照子
気がつけば残照の中われ一人集めし落葉又風にちる

田　久　井上　光
夜通しの野分に倒れ土低きほとときすの花があかと立つ

光　岡　古森テル子
境内の楓の紅葉色深く次第に冬の寒さ増し来る

曲　天野　玲子
初任給で孫が買いたるワイングラス撫でて琥珀のワインを注ぐ

城南ケ丘　中間日出子
窓日受け朱あざやかなシクラメン競いあいつつ壁に映ゆるも

自由ケ丘　細川　緋子
今はきし庭に散り敷く柿落葉よくよく見れば地図をゑがけり

ひかりヶ丘　中村　哲真
乱れ伏す枯草覆う薄霜は白い紗の布被せし如く

池　田　小田　イセ
植ゑ置きし山茶花なるか苔むせる武家の墓辺に花は咲きつぐ

田　野　森　甲子
ひと年をかけて作らるる菊の花いま宗像の社に香る

光　岡　河村　久光
溝川の土手なる際に泡立草いくつも咲きて犬走りくる

宗像大社歌会
俳句作品集（四四九）

自由ケ丘　細川　絅子
鶏頭の背くらべして一列に

福間　森　清
小春日や音痴二人の声高に

日の里　花田いつ枝
放生会いまだ東京ケーキ盛り

東郷　吉武　湧泉
冷える夜や離島避難の人思ふ

東郷　中野　きみ
コスモスをコスモスらしくゆらす風

東郷　吉田　杏子
秋気澄む書き残すこと何もなし

東郷　三浦美千代
木の葉月流れてすめる水

東郷　田中　雨葉
重なりて絵馬や一挙に黄落す

東郷　木原　房子
磐おもてなめらに流る秋の水

東郷　田中　憲象
旅支度菊にたっぷり水をやり

神郡宗像 宗像大社末社めぐり

（十二）稲庭上社（いなばけのやしろ）

玄海町田島字飛松にあった稲庭上社は祭神に倉稲魂命（保食神）を祀る宗像百八社の一つである。

当社辺津宮横を流れる釣川沿いの県道を宗像市に向かって約一キロ走ると、左手に小高き山々が続く、この中に石段が少し見える。

これが片脇城跡で春には桜が咲きほこる。この山脈の切れる処が飛松である。町道から森に入る雑木樹繁る中に跡地はある。しかし、今は定かに境内地と見る事は出来ない。

当社の御縁起を見ると、宗像百八社の中に、正平年中行事、七十五社の一つとして「稲屋上社」と見え、同神事の條に「稲庭上社神事」十二月十八日大神事（諸郷巡役）同日心経供養佛事」とある。延宝末社帳には「稲庭上明神倉稲魂命」と記されている。

「筑前国続風土記」に「社家の説に、宗像三社に織幡・許斐を加へて五社と云、又孔大寺を加へて六社と云、稲庭上を加へて七社と称す。」と記されている。いずれにしても、宗像神社と関係深い社であった事がうかがえる。

「続風土記附録」には、宗像郡田島村の條に、稲庭上舊址、片脇村の南にあり。古へは大社なりしか、百八神の内に合せ祭る故に廃絶せしか、近き頃、古記により石祠を建て祭れり。」と見える。また「国風土記拾遺」には「物社舊址拝末社の條」として「稲庭上明神舊址、片脇城跡址の巽方田の中、差出たる尾の上に在。此社も本社（宗像神社）の側に移されたり。其址に近き頃、石祠を建て祭る。」とある。

明細帳には、「大正四年七月まで、田島村字北付に無格社として在したが、この牟田島字上殿の代八満神社に合祀され、跡地（五五坪余）には小さな社檀を存する。」とある。

現在この地は、第二宮・第三宮境内地となり整備されているが、以前「田島小学校」の校舎が建ち、運動場に生徒たちの声が満ちた当地であれば、その変遷の中、社も飛松から北付から上殿の代八満社へと時代の流れに合される様に移動変遷をした社である。

今この舊址地に入りたたずむと、石祠の址も定かではない。雑木林と竹林に繁る中にあって、往古の神殿をしのぶ面影は何もなく、林中の風音にまぼろしの神域を思ひ浮べることしか出来ない。

各地の「鎮守ノ森」をたずねる時、その土地柄にもよるが、往古の姿そのまま、に巨大樹木が繁る神域、昔のおもかげ無く淋しげに片付けられた石祠、また無人化した雑木林の中に残る石段、などなどその変遷には、大きな時代の流れが生きている。

幕末から明治へと動いた大改革の中で、社寺の分離が一番の変遷であらう。さらに大正に入っての合祀により小さき社寺の伝説は消え、昭和の敗戦ともに忘れられていった。これらの伝説・伝統の中には、親から子へ、子から孫へ受け継がれて来た土地柄の「教へ」は先祖と祖神を結ぶ「今生きる者」への教道であり、道徳であった。

これらの土地に生きた「教道」には、その地の環境を守り、自然と共に生きる「道しるべ」を伝えていた。この大切な「道しるべ」をすべて撤却し、忘却した姿が現世である。今この忘却から「しるべ」をさぐる事の重大性に目ざめる時である。

神郡宗像地方略誌（八）

筑前福岡藩の時代に撰述された主要地誌「筑前国続風土記」「同附録」「同拾遺」を紹介したが、この他にも「筑陽記」「太宰管内志」さらに「筑前名所図会」などの名著がある。これらの著書紹介を少ししておく事にする。

『筑陽記』編者は安見有定であるが、その事績は明らかでない。福岡藩士で退職後地誌の編集に従事した人で「諸懸」と号したり「知止軒」と称した人物で「元禄分限帳」によると、安見性は「三百石安見正左衛門」とあるが、同人物かどうか確認できない。と「宗像郡地誌」で中村正夫氏は記されている。この「筑陽記」は三巻から成り、第一巻福岡、第二巻博多、第三巻以下は各郡で（三）那珂、（四）席田、（五）表粕屋、（六）裏粕屋、（七）早良、（八）怡土、（九）志摩、（十）御笠、（十一）夜須、（十二）上座、（十三）下座、（十四）宗像、（十五）遠賀、（十六）鞍手、（十七）穂波、（十八）嘉麻という構成になっている。

『太宰管内志』著者は伊藤常足（つねたる）。常足は号を直木（魚沖）と称した。安永三年（一七七四）鞍手郡古門村（鞍手町）産神「古物神社」社家人常成の次男として生れ、兄の早逝により家職を継ぎ、かたわら塾を開いて、その生涯の大半を鞍手の地で過した国学の大家である。

幼少時から神童の名高く、十八歳で木月村の藤崎見順より儒書を学び、二五歳にして亀井南冥について儒学を修めた。二六歳の時、青柳種信に入門し、国学の道に入る。

文化元年（一八〇四）三一歳の時、師種信の進言ありて「太宰管内志」の編さんに取りかかる。さらに文化五年、三五歳のとき、桜井神社（糸島郡志摩町）浦毎保大宮司の賛同のもと、同社に神道関係の文庫（桜井文庫）と仰古館（学校）をつくり、日本書紀の講義を行った。又、京都にのぼり、畿内各地を歴遊して多くの諸名家と交り、筑前に常足ありと名を広げた国学者である。

『管内志』は文化元年から天保十二年に完成した全八二巻から成る大著書で完成は常足六八歳の時であった。この書の特徴は資料の豊富さにある。

「此志に引用ふる書、皇国なるは更にもいはず、かう国の書と云へとも明朝より已前なるは是をもらさず、其他神社仏閣の銘文、諸家の文書の類、慶長より已前なるは皆引出て証とせり」と常足も凡例に記している。全巻の構成は、筑前二十六巻、筑後八巻、豊前十一巻、肥前八巻、肥後六巻、日向四巻、大隅一巻、薩摩二巻、壱岐二巻、対馬二巻と云う九国一島、すなわち全九州が対象と云う膨大な内容著書である。

『筑前名所図会』は、江戸時代の博多文人として有名な奥村玉蘭の著書である。

玉蘭は宝暦十一年（一七六一）博多中島町の「烟草屋」の屋号を持つ大商家、奥村源吉の長男に生れる。幼少より儒学や歴史書を通読し、亀井南冥・昭陽に師事した絵は絵師岸駒の門人で安楽寺天満宮の「孔少の絵馬」奉納は名高い。

交通安全　宗像大社初詣交通規制のお知らせ

期　間

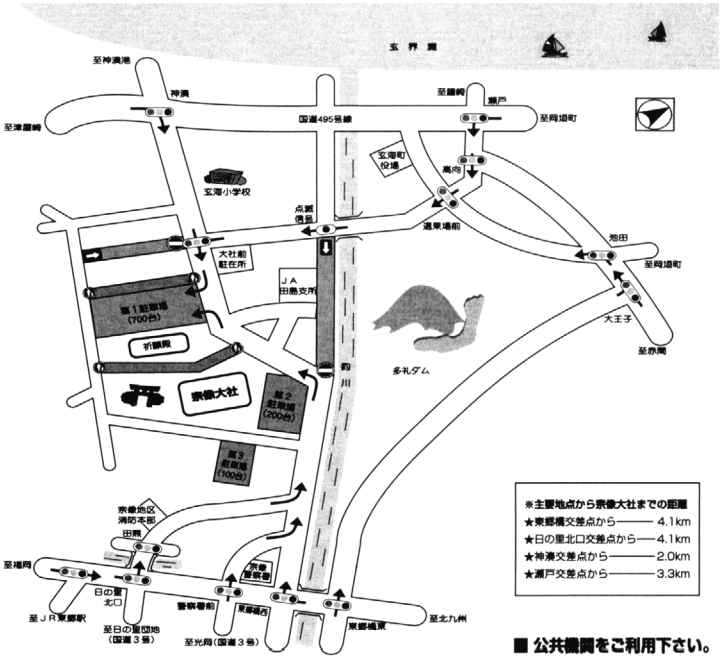
- 平成12年12月31日 午後9時から 平成13年1月1日 午後9時まで
- 平成13年1月2日～1月5日 午前9時から午後7時まで

※交通状況により、規制時間を変更することがあります。

宗像大社の初詣期間中、交通の安全と円滑を図るため、臨時交通規制を実施します。
みなさんのご協力を御願いします。

凡例
宗像大社順路
一方通行
歩行者用道路
車両進入禁止
交通信号機
駐車場

年末年始祭典		
12月31日	15：00	大祓式
	引き続き	除夜祭
1月1日	7：00	総社地主祭
	9：00	元旦祭
	引き続き	高宮地主祭
	〃	高宮祭
	〃	第二・第三宮祭
1月2日	9：00	新年二日祭
1月3日	〃	新年三日祭



■ 公共機関をご利用下さい。

●高齢者の交通事故防止　●飲酒運転の追放
●シートベルトの着用の徹底及びチャイルドシートの着用促進